

会議の概要（議事録）

会議の名称	(番号) 1 - 4 9	第3回墨田区基本構想審議会		
開催日時	令和6年12月16日(月) 19:00から21:00まで			
開催場所	すみだ共生社会推進センター ホール			
出席者数	【委員】加藤久和(会長) 上野武(副会長) 阿部貴明、角山剛、駒村康平、鈴木みゆき、井上佳洋、森山育子、佐久間之、星野喜生、西村孝幸、平林秀敏、山室学、須藤正、杉山達雄、金谷直政、岸成行、相澤純一、木村優太、佐藤祥子、真鍋文朗、山口亮 (計22名) 【事務局】岩佐企画経営室長、楠政策担当課長、政策担当主査(矢野、原、田部井)、政策担当主事(田中)			
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる) 非公開(傍聴できない)	部分公開(部分傍聴できる)	傍聴者数	5人
議題	1. 各部会のまとめについて 2. 墨田区基本構想の答申イメージについて 3. 今後のスケジュール			
配付資料	1. 次第 2. 分野別未来予想図のまとめ【資料1】 3. 墨田区基本構想答申イメージ(案)【資料2】 4. 今後の予定【資料3】 5. 夏の遊び大学を通じたこどもからの意見聴取【資料4】 6. ジュニア・リーダーからの意見聴取【資料5】			
会議概要	1 審議 (1) 各部会のまとめについて 事務局から資料1について説明を行い、それに対し各部会長が補足の説明を行った。 (2) 墨田区基本構想の答申イメージについて 事務局から資料2について説明を行った。 (3) 今後のスケジュール等 事務局から資料3から5について説明を行った。			

2 質疑応答

(木村委員)

最初の産業のところだが、何か先端技術みたいなテクノロジーとか、そういう言葉が入っていなかったのが意外だった。現実的にアストロスケールさんだとか、宇宙であったり、ロボットであったり、それは決して墨田区の町工場とか関係なく、外から来ていただいた。こういったところで背中を押してあげるべきなのではないかと思っている。

新たな価値を創出し続けるというところが、ものづくりの付加価値のことづくりになっていくという文脈の流れになっているのかなと思うが、どちらかというところ、カスタマーインみたいに顧客に合わせるみたいな文脈に書かれていて、もっとアストロスケールさんみたいに、異次元なクリエイティブというか、宇宙のごみ拾いみたいなのは多分、既存の事業の延長線というところではなかなか思いつかないところだと思うので、どうやってそういう会社を誘致して、墨田区は良い、面白いとなってくれるのかなというのが、この文章を見て感じた。

あと、こどもたちや若い人が、いろんなレポートとか書いていただいたら、やはりデジタルという言葉が結構いっぱい書かれていたと思う。こどもの教育の中でのプログラミング教育は国として推していると思うが、プログラミング、テクノロジーを学んでいく上で墨田区にそういう産業がないとこどもたちが出ていってしまうのではと思っている。

ファミリー層の流出というのは、墨田区にとってすごい大きな課題であるが、墨田区に住みながら、昔ながらの職住一体型という中で、先端技術だったりとかITデジタルの職種を持った未来のこどもたちが、墨田区に住みながら働いて欲しいなという思いがあったりする。なので、横軸の問題があると思うが、デジタルやAIとか、そういったところをどうやって文脈に盛り込んでいくのか。新しい資料の中で、そういうところを補完していただけると良いなと思う。

(事務局)

具体的に個別の企業名が出ていたが、基本構想という中では、やはり全体をしっかり見ていくことが大事と思っている。

第1部会の中で議論いただいた中では、新しい分野にチャレンジしていくということが大事だが、チャレンジすることは、別にその新しい事業者、先端技術に挑んでいるということだけではなくて、既存の事業者も新しいことに挑戦しているということ。既存の事業者についても、新しいことに挑戦していかないと生き残れない。例えば100年前からいる企業であったとしても、100年前と全く同じことをやって、今ある企業はないはずというようなお話があったのが、大変印象に残っている。

先端技術やテクノロジーというような言葉、そういった言葉をどこかで使うようなところがあるかどうかというのは、少し考えさせていただければと思う。

そういった事業者も含めて、すみだの中には活躍する場があるという思いは込めさせていただいている。決して先端技術やテクノロジーにチャレンジをしているような事業者を無視しているわけではなくて、その「挑戦し続ける」の中に、誰もがチャレンジできるということや、その時代の変化を捉えながら、技術の革新に適応していくこと、これはまさにそういった先端技術とかというところをイメージし

ている言葉であるのは間違いない。ただ、おっしゃられることは理解したので、今後の課題とさせていただければと思う。

（木村委員）

なぜこの話をしたかという、今S I Cに登録してやっているが、ハードウェアのスタートアップではないと、あまり評価していただけないような、そういう残念な話を聞く。例えば金融とか、第三次サービスのスタートアップなどの起業家たちが面接で落ちてしまうとか、そういうことがあったので、あまり既存事業者との組み合わせにこだわり過ぎない方がいいのではないかという意味での意見。

（加藤会長）

横文字の問題について、10年後のことを考えたときにどういう横文字が生き残るかという議論があった。そこはまた事務局で考えていただければと思う。

（岸委員）

人口推計関連というページがあって、以前議論があった中で、なぜ10年後という括りにしたのか。それから、10年後墨田区は若干増えているというような説明があったが、墨田区の10年後の状況と、日本の10年後の状況、そういうことを含めて、この人口推計関連のところで、なぜ10年後の括りにしたのかというところを明確にさせていただければと思う。

それに関連して、今の第1部会、第2部会、第3部会の、この表題のテーマで順繰りにいくのか。もしそうであるならば、最初に産業振興という言葉が出てくるのは、私は少し違うのではないかとそんな気がする。

今の時代で、産業振興を頭に持ってくるのはどうかという気がする。

（事務局）

そもそもなぜ10年後にしたのかというところでは、第1回・第2回の時に説明させていただいたとおりだが、やはり20年後というところでは余りにも遠すぎて逆に具体性がなさすぎる。そういったところで、もう少し短い期間での構造・ビジョンというものを描くべきではないかというような前提があった中でものになるので、人口推計から10年後という期間を考えたわけではなく、基本構想の中で説明するということは少し違うかなと思っている。

どちらかというと、序章の「基本構想とは」のところで、我々はこの10年を、こういう考え方の中で描くというようなところを書かせていただきたいと思っている。

10年後のまちの姿を描くことによって、みんなでそのまちの目標に向かって進んでいきたいと思っていただく、そのためにこの基本構想を作ったというようなところが序章において説明され、第1章を開いたところで、その考え方を踏まえての「2035年のすみだ」というような表現になるのかなと思っている。

一方で、この人口推計関連というところでは、基本構想の期間となる10年間だけの人口推計ではなくて、以前お示ししたとおり、もう少し長い期間の人口推計というものを置かせていただくことを考えている。区全体として、長期的にはこうい

う風になっていく見込みというところを、できるだけ主観などを排した形での見せ方をする資料的なページを、この将来展望というところ、こちらのページと9ページのところで書かせていただければという風に考えている。

分野別未来像の中で産業振興が1番目にあるのは、いかがなものかという意見があった。これについてはぜひ審議会委員の皆さま方からもご意見をいただきたいというふうに思っている。1番目に持ってきたという事務局の考え方として、墨田区が、いろいろな分野において、ものづくりのまちというような言葉が一つ、いろいろなところに広がっている面もあったので、ものづくりのまちというのは、今までの墨田区のアイデンティティみたいなのところもあったので、それを踏まえて、ここに置かせていただいた。

最初に申し上げたとおり、「すみだらしさ」というところを表現するのが、基本目標1にあった方がよろしいのではないかなと思っているという点には変わりはないので、例えば文化芸術・スポーツが前にあった方がいいのではとか、観光・シティプロモーションが前にある方が、今のすみだにはしっくりくるのではとか、そういった意見はあると思うので、そういったこと含めて意見いただければと思う

(岸委員)

今の10年後ということと、それから人口のこれからの変化について、うまく表現していただくというのは了解した。

それから、この産業振興という言葉が私にはピンと来ない。今の時代で、例えば、ものづくりとした方がわかりやすいし、ピンと来るような気がしている。

(事務局)

産業振興という言葉が一般区民の皆様にスッと伝わるかというところが、確かに一つの課題かと思う。

一方で、「ものづくり」という言葉にしてしまうと、今度は逆にそのイメージが旧来のものづくりのイメージにつながってしまうのではないかな。産業振興というのは、必ずしもそういったものだけではなくて、様々な商業も含めて、産業というようなものが成り立っているというところがあるので、それ全体を包含するような、いい表現があればなと思う。

今後の検討課題であるが、こんな表現がいいのではというような提案があれば大変ありがたい。

(加藤会長)

今の意見の中にもあったように、どうしてこの順番なのかというところについては、一定の考え方を事務局の方で持っていただければと思う。

(佐久間委員)

未来予想図の中では景観、水辺空間・環境に該当するかと思うが、脱炭素の取り組みが必要であるという意見が10年後の未来予想図に書いてあるけれども、墨田区はゼロカーボンシティということで、2050年、脱炭素の宣言をすると、特に雨水利用で全国に名を馳せているので、雨水利用がさらに広がりを見せていくという

ような状態が 10 年後も見られているということがあったらいいと思った。

（事務局）

脱炭素やゼロカーボンシティといったところを言葉として盛り込むかどうか、これが 10 年後の時に言葉としてどうかということも、またいろいろな悩ましいところであるが、おっしゃるとおり、「雨水」がすごく大事ではないかということは第 3 部会の中でもいただいている。

結果的に、言葉としては、このページの一番下の「環境にやさしい循環がある」の中に、雨水の利活用という言葉の一つ入れている。

多分おっしゃっていただいたのは、ページ全体を表現する上の文章の中にも、「雨水」というところが入ったほうがいいのではないかというような意見だと思うので、今後考えさせていただきたい。

（西村委員）

先ほど話をいただいて、もしかしたら現行の基本計画に書かれているのかもしれないが、順番としてよく聞くのが、「暮らし続けたい、働き続けたい、訪れたい」というような流れがある。今回の産業振興の方が先に来る一定程度の説明というか、あえてそうしたのは何なのかなというようなところに意味をもたせる必要があるのではと思ったところ。

もう一つ、第 1 部会になるかと思うが、私はシティプロモーションにも関わっているので、基本計画であれば、シティプロモーションは、それぞれ全体を取り巻いて、横串を指す役目というふうに、前に伺った気がする。そのあたり、例えば分野として入れているのかというようなところは、少し考え方の整理をした方がいい。

（事務局）

先ほど申し上げたとおり、基本目標 1 のところに持ってきているのは、すみだらしさという言い方をすると、すべての分野が本来すみだらしさを表現しているはずではあるが、やはり特に特徴が出ている、23 区の中でも他にはない分野というところが、この基本目標 1 には多いのかなというような印象を持っている。

他の分野だと、すみだらしい教育であったり、すみだらしいまち・水辺みたいなのは、もちろんあるが、一方でそれは他の地域ではどうであるかということとの比較にもなってきたりする。基本目標 1 がすみだらしさというところを特に表現している印象があって、事務局案としては一番に持ってきている。

一方でシティプロモーションについては、第 1 部会の議論の中でも、やはりどういうふうに表現すべきか。シティプロモーションというのが、行政の内部計画であれば、何か自分たち自身が取り組むみたいな話になってくるし、一方で、まちの魅力を発信していくというような位置付けでシティプロモーションを捉えれば、こういう風な位置付けになってくるということもある。

横串を刺すという考えはまさにおっしゃられるとおりで、広報とも話して、考えている。

現在、ここの表題のタイトルのところを、産業振興であったり、観光・シティプロモーション、また第 2 部会では福祉というような言葉とかを作っていたりするけ

れども、ここの言葉自体がもう少しわかりやすい分野になっていないといけな
と、課題として思っているので、次回に向けて、今いただいた意見を踏まえた形で
整理をさせていただければと思う。

（木村委員）

健康・保健衛生のところで、昨今、コロナだけでなくパンデミックが頻繁に起こ
るだろうとか、今はマイコプラズマとか流行っているが、そういったことに対して
の、この10年後の未来というのが、「正しい知識が健康を支える」、「安心して相談
できる」や「連携を深め、環境を整える」というところにどう紐づくのかというの
が見えづらいので。何か言葉とか付け足していただくといいと思う。

（事務局）

パンデミックではないが、健康危機管理、まさに感染症が急拡大しているような
ところに対する対応というところは、その一番下の「連携を深め、環境を整える」
というところで、「いざという時に」というところの中で表現している部分の一つ
ある。ただ、今おっしゃっていただいたのは、健康が守られる環境にあるというこ
とがわかりやすく住んでいる方々に伝わるための表現というところが意見だった
かと思うので、それを踏まえてもう1回整理をさせていただく。

（金谷委員）

今日はまとめの始まりということで、やはり皆さん横串の話をされると思う。

この構成というか、まとめ方にも関わるかと思うが、観光、経済分野とか、あと
医療分野、防災分野に分かれているが、縦割りでやはりなかなか進まない。例えば、
防災の分野で思うのは、50年前からまちづくり協議会でやっているが、やはり問
題がずっと残ったまま。なぜか考えると、教育とかが大事という話が出ていたが、
大人が思ってくれなければ、耐震化とか、防災化も進まない。建物にお金をかけたく
ないという話になって、止まってしまうというのを見る。

こどもの教育の中にそういったものを入れ込んでいかなければならない。おじい
ちゃん、建物をしっかりして、僕が安心して暮らせるようにしてよ、という言葉が
あるともう少し進むのか。それぞれの分野で防災、教育というのがあるが、もう少
し深掘りしていくと実はつながってくるのではないか。

ただスローガンとして分野ごとに出すというよりは、住みたい魅力づくりとか、
何かそういうところで結んでいくような構成の仕方とかができないか。すごく難し
い話で申し訳ない。

あと防災の軸でいうと、例えば観光もすごく大事だなと思って、墨田区は観光資
源があるが、他の場所と比べてそれほどあるのか。観光の力と防災は親和性があっ
て、観光客がいっぱい来る時に、例えば耐震化を進めるとか、観光客で風呂屋とか
を利用する人がいるけれども、防災化・耐震化していなければ、観光客が使えない
ような仕組みづくりとか、そこもつながってくる。だからなるべく積極的に横串を
刺すべきではないのかなと思ったりする。あとは深掘りをしていく必要があるの
ではないか。

(事務局)

基本目標 1・2・3をどうしてこの分野にまとめたかというところについては、先ほど説明させていただいたとおり、直接的な関連が特に多いところで整理した。

逆に、一定の軸を持たないとバラバラになり過ぎてしまって、冊子形式でまとめるのが難しいということもある。

ただ、防災の視点というのは、やはり教育に取り入れるべきではないかという意見が第3部会だけではなく、第2部会からもあったというところを踏まえ、資料2を見ていただければと思うが、資料2の17ページ、こども・子育て・教育の分野の中で、「未来を切り拓く力を育てる」の位置付けの中に、「防災・ものづくりや伝統文化など、地域の特色を活かした教育」、こういったものをやることによって、「こどもたちが意欲を持って学び、視野を広げ、課題を解決する力を身につけていける環境をつくれます」というような表現を採らせていただいている。

一つひとつのところの中で、特に目立つような横串の部分については、できる限りこういう風な言葉として取り入れていきたいと思っているが、それ以上になると、資料2の第1章、6ページのところで、「2035年のすみだ」の姿の中で、包含的に横串が刺さっているべきものは表現していくのかなと考えている。

(金谷委員)

分野ごとで分けてしまうと、なかなか横串が刺さらないという話が20年前の基本構想でも出ていた。

特に墨田区は密集していて、近いところにみんながいるというのが影響するのかなと思う。同じような防災のテーマを区民全体が共有できるというのは、地方とかだとありえない状況だと思う。もっと積極的に横串を刺すというか、横串から作っていくという発想があってもいいのかなと思う。

(加藤会長)

この形で今進んでいるので、完全に最初から横串から始めるのは難しいと思う。考えを少し反映する形でお願いしたい。

(事務局)

今回9つの分野で構成しているが、すみだにおいては、防災というのが、横串というか、おそらくこの9つの分野すべてに関わっていくと思う。

それは例えば産業であれば、災害に対して、事業継続していく上で必要なことを考えるなどしていかなければいけない。すみだの地理的な要因、やはり川に囲まれているというようなことであったり、過去には関東大震災があったりというようなことがあるので、防災という分野で、横串で何かをつなぐというより、おそらく防災というのは、すべての分野に通底するのだらうという風に思っている。

そうした時に、第3部会において、資料2の20ページの部分を最初に議論いただいたときは、地域活動、防災・防犯分野と言っていたが、防災という言葉ではなく、コミュニティという言葉にしている。これは、つながりが重なるというような言葉などを大切にしていくなかで、コミュニティという表現を置かせていただいているが、もしかすると防災というのは、金谷委員から話があったとおり、すみだとし

ではもっと広いところから、ここを全部つないでいかなければいけないという思いを持っていなければいけないのかもしれない。

非常に難しいのは本当にそのとおりだが、表現の工夫のところは、できる限り期待に沿えるように考えてみたいと思う。

（上野副会長）

私自身は墨田区に関わるようになって新参加だが、シティプロモーションロゴを作ったことは本当素晴らしいと思う。こういうロゴを持っている自治体は全国探してもそうはないと思う。キーワードが「人つながる 墨田区」。

3つの部会を作って、いろいろ議論してきたが、これは本当に委員の皆さんが真剣に考えてきたこと。細かいところはいろいろあると思うが、みんな素晴らしいアイデアを出しているはずなので、やはり、まとめるキーワードを何としてでも作るべきだと思う。その時にやはり、どこかで聞き慣れたというか、耳障りのいいとかではなくて、もしかしたらそれこそ、キャッチコピーを考えてくれる人に何か相談するとか、そういうことがあってもいい。シティプロモーションでやった「人つながる 墨田区」ということを今後もずっと守っていくのか。いや見直して、また考え直そうというか、覚悟というか、その辺をお聞きしたいと思う。

私は10年後をイメージしてというのは、はっきり言って嫌い。10年後に見直すという風になっても見直さなくていいよねというぐらいのキーワードをここで作る。それぞれの部会が考えたことは、多少見直す部分が出てくるかもしれないけど、というような形にしたら、どうかと思う。10年後と言っても、20年前は確かに東日本大震災もなかったし、パンデミックもなかったし、スマホもないし、SNSもないけれども、それでも変わってないことはいっぱいあると思う。

その10年という言葉イメージしつつ、もっと先を目指すキーワードをぜひ皆さんと一緒に考えたいと思う。

（事務局）

おっしゃられるとおり、事務局でも今回いろいろとまとめさせていただいているが、先ほどから言っていたように、10年先とは言いつつも、この言葉が10年後にはもう使い古されて、いらなくなった言葉であってはいけないし、10年後も通用し続ける言葉でなければいけないという考え方の中で整理をしている。やはり基本的にはこの言葉が、10年後だけでなく、もっと先も使い続けられるような言葉であって欲しいという思いの下に、それぞれの文章は作ってきている。

その上で、もちろん10年後にこれが実現されているまちでなければならないというような思いが一つあるので、新しい課題であるとか、先ほども大震災やパンデミックの話があったが、そういうものによって付加されるものがあっても、そもそもの根底のところから変わってしまうようなことではないのかなという風に思っている。

キャッチコピーとして、「人つながる 墨田区」という言葉を変えるのか、変えないのかということについて、これからの議論と思っているが、人つながるというところが、今回第1部会、第2部会、第3部会すべての分野において、やはりすみだは人と人のつながり、ぬくもり、そういったものが、すみだらしさであって、

守っていかなければならないし、もっと良くしていかなければいけないというような言葉でいただいていると認識している。なので、「人つながる 墨田区」という言葉が非常に良い言葉ではないかということで、大変ありがたいが、本当にそれが一番いいのかということも含めて、今回の中で議論しながら、整理をしていければと思っている。個人的には、「人つながる 墨田区」という言葉を今後もしっかりと使っていけるような形でやりたいなと思っている。

（上野副会長）

それを皆さん共有できるのであれば、頭の片隅に入れながら、もう1回自分たちが読み直してみるとか、そういう形があるのではないか。さっき少し話したが、つながりが重なる。そういうのが、墨田区の良いところだし、重なることで新しいものができてくるとか。何か昔からの伝統がつながって、未来へのメッセージが書けるのではないかと思う。

（加藤会長）

非常に難しい宿題と思う。

それぞれの項目について、意見をいただいているが、事務局の方からお願いをされていることがある。

一つは資料1の中にある基本目標として、第1部会では「価値づくりが進化する」、第2部会では「おせっかいがめぐる」、第3部会では「心地よい安全がある」という言葉を取りまとめていただいたが、上野先生からの発言もあったけれども、この点についても、言葉遣いはどうであるかに加えて、意見等いただけるとありがたい。

（山口委員）

そこを踏まえてというわけでもないが、この説明の中で「まちになっています」という部分と、「目指します」という部分が分かれているが、何か意図的に分けているのか。

（事務局）

こちらは意図的にというか、「なっています」と「目指します」と2つを使わせていただいていることは事実。具体的にここまでなっているところをイメージできる部分と、多分「目指します」という言葉でないと、みなさんの意識が一つになれないかなと思った部分があったので、そういう意味合いで「目指します」と「なっています」に分けている。事務局でも検討が必要と考えており、もう1回見返す予定。どちらか一方に固まってしまうと、それはそれでリズムが悪いというのも少し感じている。そこら辺は整理したい。

（山口委員）

なっているというのは、今ではなく、10年後になっているという意味か。

（事務局）

おっしゃるとおり。

10年後に「なっています」というところで、10年後にそうなるよう「目指します」という言葉もあるので、時点が今なのか、未来なのかというのが混ざっているので、少し気持ちが悪いなというのは、多分山口委員もお気づきとを感じる。

（山口委員）

その下の項目の中で、「まちをつくります」と「地域をつくります」みたいな言葉が対応されているが、つくるという主語は区役所か。

（事務局）

こちらについては、今までも議論してきたとおり、区民をはじめ、皆さんと行政と一緒に目指していくということなので、行政だけでなく、みんなでこのまちをつくろうということ。そして三つのまちであったり、地域であったり、何かを「つくります」というものが重なって、上の「なっています」や「目指します」になっているというイメージで書いている。

（山口委員）

理解した。その区民と一緒に「つくっていきます」というニュアンスがどこかに欲しいなと思った。やはりこれを見たときに、自治体がやってくれるという意識にみんななる気がするので、そこを少し強調したい気がした。

（事務局）

今のそういったところを強調するところを、序章の最初の「基本構想とは」というところに設けたいと思っているが、そこで伝わり切れるかということも含めて次回ここを文章化した際にご意見をいただければと思う。

（阿部委員）

皆さんの意見も聞きながら、産業振興という言葉の馴染み、これが一番でいいのかというのが象徴しているが、墨田区の基本構想をやるときに、なにか予算割りのコスト分配型の基本構想になってしまうイメージがやはりよくないと思う。

福祉・教育とか、保健衛生とかが大事ではないという意味ではない。行政としては重要なところ。能登半島の被災したあの様子で、今一番重要なのは生業支援。どうやって皆さんが生活していけるか、生きていけるか。自分たちでちゃんと稼げるエリアだということが、すみだらしさの一つ、象徴にすべきだと思う。産業を一番にすべきかどうかは別だが、住んでいる人たちが、そこで何らかの形で稼ぐという気持ちが表れるような基本構想であるべき。

ただ、多分馴染まないのは産業振興の振興という言葉が、他のテーマの単語と合っていない。ベタでいくと、商工業。すみだの産業の場合、おそらく農業と漁業とかは排除しても実態としてはいい。わかりやすくということであれば、商工業という言葉を使うか、或いは経済という言葉を使うか、どちらかかと思う。

それと気になったのは、先ほどたまたま固有名詞でアストロスケールさんの名前が出たが、そのような会社が墨田区に来るときには、墨田区の何を価値として見出して来てくれているかということが重要で、この人達を排除する必要は全くない

が、ただ、すみだの価値に合わないのであれば、入ってこない方がいいなというのがある。価値で合っているという意味では、アストロスケールさんの場合は特にものづくりの産業集積をうまく使えるなという風に思っていたかたのではと思う。

なので、本質のところは墨田区側でもって、黒子になっているものづくりの人達、工業の人達、町工場の人達がしっかり仕事をする事で、結果的にそれをうまく利用することができるような会社に入ってきていただく。そういうことで、稼ぐ力がより良くなっていく。これはこれで排除しない対象だが、誘致をする対象では多分ないと思う。ぜひ来てくださいというよりも、うまく利用していただく、価値を認めていただいて来ていただけるのであれば、ぜひ来てくださいというレベル感かなと思う。

それから、たまたまS I Cの話に触れていたが、少し残念に思ったのは、おっしゃるとおりだとすると、現実問題としては都市型のものづくり工業の中で、ファブレスが十分あって、トンカチでカンカンやるのが、ものづくりのすべてではない。ソフト面も含めたアイデア中心のファブレスものづくりをS I Cが排除しているとなると、それは何か間違っている感じがする。そこは見直された方がいいのではないか。

（事務局）

最初にS I Cの話から答えさせていただきたいと思うが、ものづくりでないことが原因で落とされたかどうかというところは確認をしてみないことには、はっきりしたことは申し上げられない。今の時点でそこは未確定であるということは理解いただければと思う。

あと、商工業や経済みたいな言葉をいただいた。私がこう伺っていて、この言葉だと区民の方とかにわかりやすいかなと思ったのは、「しごと」みたいな言葉。そういうことも含めて、表現の仕方は整理させていただければと思う。

（森山委員）

先ほど金谷委員の方から話があった、防災と学校だとか、観光とまちづくりというところでいうと、横串という部分は本当に必要な点だと思っている。

それで、分科会の最後の方にはっきり言えなかったところがある中で、資料1のまちづくり・都市基盤分野のところにある、安全と楽しさが両立するまちの中の、個性があって住みやすい項目の中に、「町工場や商店、住宅などが、混在しながら調和できる環境をつくります」とある。これは以前にも話をさせていただいたと思うが、墨田区がものづくりのまちであるのであれば、転入する方にはものづくりのまちであるということを認識してから来ていただきたいと言い切ってしまうのか、しまわないのかという中で、混在して調和できるということは、ものづくりの音を受け入れながら生活する住民の人たちがいてくれるという形で考えていくことになる。そうすると、ものづくりが抱えている課題がここで解消されるような、仕組みづくりをしていただけるのかなと。変な一步を踏み込んだ話になっているのかもしれないが、ものすごく矛盾しているところがあるような気がする。

期待で考えれば、そういう今の現実を解消できるような仕組みづくりをここでは期待させてくれるのかなというところがあって、ここはどういう形で、これが出て

きたのかなというのを聞きたい。

（事務局）

第3部会の方の議論の中ではやはりすみだの特徴として、ここに書かせていただいているとおり、混在していることがすみだの魅力というような話があった。

一方で、第1部会の議論があったように、後から入ってきた人が、音がうるさいからと、町工場に苦情とか、例えばイベントが中止になるみたいな話もあった。

そういう風なものをきちんと、そのまちの方向性として、みんなで考えていこう。おっしゃれるとおり、行政としてもやるべきことをやらなければいけないというのを考えなければいけないという視点で書かせていただいているつもりではある。

皆さんと一緒に作って、この方向性というものを踏まえて、対策を立てていくというような形になっていくという風に思っている。

住民の方々に理解をしていただくというのも一つの方法。またもう一つの方法としては、具体的には第1部会の方では、例えば防音性が高い住宅を作るところに補助をするような制度があってもいいのではないかというような話もあった。

そういったところも一つの考え方と思っており、税金の使い方ということも踏まえて、こういったまちを目指していこうということの方角性として打ち出すのであれば、その次は何がやってくるのということ方は、また次の段階の議論として、森山委員の今の指摘のとおり、あるべき話ではないかという認識を持った上での記載と理解いただきたい。

（上野副会長）

今の森山委員の質問に関連して、私は都市計画などが専門だが、墨田区は住居地域というものがない。例えば、世田谷区とか、そういうところには第1種住居専用地域とかがあるが、墨田区はほとんど準工業地域。もともと工場建てる時に決めたが、建築基準法、都市計画法を変えない限り、墨田区はどんなものでも建てられる地域になっている。

だから、昔のように、ここは住む場所、ここはビジネスの場所、ここは商業の場所というような区分けをする都市計画を見直そうという動きがいろんな地域で出ている。逆に墨田区は先陣を切って、それこそモザイク状のいろんなものが混在するまちに法的にできる。その辺りはすみだの特徴として捉えていいのではないかとということで、部会の中で話し合った。その時に音の問題とかは出ていなかったが。

（事務局）

具体的に何ができるかというのは、今までの議論もあったが、予算の問題というのがセットで出てきてしまう。どこまでできるかというのは、しっかりと考えていかなければいけない。でも、やはりそのすみだの特徴というところを、第3部会においてそういったところはすごくいいという風に言っているのであれば、行政としても、その状況を魅力としてやっていくためのことを考えていかなければいけない状況にあるのではないかと考えた。

(木村委員)

こども・子育て・教育分野について、こどもというひらがなが、小さいこどもをイメージする。産業振興の方もそうだが、キーになるのは、やはり大学だと思う。例えばシリコンバレー、スタンフォードとかの成長があって、あのようなまちになった。せっかくIUや千葉大とかが入ってきて、いい感じなので、何かそういうイメージがあるといい。

あと、そういうことを伸ばしていくために、こどもにはフォーカスしているが、私がポイントに思うのは、教職員とか、教える人側を増やしていくこと。墨田区は大学に限らず、まちゼミがあるなど、皆が教える文化があると思う。教える側の人を増やしていこう、優遇していこうみたいなメッセージがあったらいい。

二つ目は介護について、私も障害者の育児支援やっている方とつながりがあって、支援させていただいているが、やはり親がかなり苦しくてリフレッシュできないし、介護サポーターも非常に人材不足。かつ、手当とか処遇がそんなによくないという問題が結構あって、これから高齢化社会で、10年後はものすごい人材不足になると思うので、そこをどうしていくのかと、このおせっかいだけで大丈夫なのか。もう一步踏み込んで、介護の方は意気込みを書いた方がいいのではないかなと思った。

(事務局)

今の意見はどちらかというと行政がどうするか、何をやるかみたいな視点に寄っているイメージがある。まち全体がどうなっているかというところから、まずは紐解かせていただくことが大事と思っている。そのときに、先ほどおっしゃっていただいたような教える側がやはり教えやすいというか、教えて苦しくないではないが、負担が軽減されなければいけないという課題感というのは、行政としては非常に強く持っている。

ただ、その教える側がきちんと教えられるか、教えることに集中できる環境になっていけば、その時に、まちにおいて、こどもの環境がどういう風になっているのだろうか。こうやって幅広い様々なことを学ぶことができ、こどもがすくすく成長できるようなまちになっている。そういうところを描かせていただいて、そこから紐解いたときに何をやらなければいけないのか。それはやはりその教育をする人たちの負担を軽減することとか、そういう形につなげていきたいかなと思っている。

介護においてリフレッシュできるというようなところの話を、どういう風な部分で入れていくのが適切かというのを少し考えた。今おっしゃられた中でいうと、例えば、産業振興の中の一番下に置かせていただいている「自分らしく働くことができる」において、働いている人が自分の状況、特性に応じた形で働き方が選べるようなまちにしていこうというのが一つあるが、一方で苦しんでいる本人がどうあるかというところについては、確かに今回の視点の中で、この文章があることによって自分がこのまちにいてよかったと感じるというのはないのかなという風には思っている。どこでどう飲み込むべきかというのは、今いただいた意見を踏まえて少し整理をさせていただければと思う。

(金谷委員)

先ほど上野先生から、住居地域がなくて混在しているまちという話があったけれども、その辺が墨田区の特徴。例えばキラキラ橘商店街があって、すごく私も好きで住み始めたというのは、正直なところだが、いろいろ問題を抱えていて、密集地域の真ん中にある。商店街の方が活発にやっているの、奇跡的に残っていると思う。今の状態はいいが、例えば、輪島なんかは、地震によって、ああいう状態で、もうなくなってしまった。防災の問題と産業振興・商業の問題を別に考えると、そうなりかねない。

建築基準法、全国一律の基準法は広大な敷地がある地方と墨田区が同じというのはそもそもおかしいが、例えばにぎわいを残しつつ、安全性を高めていくためには、横串とさっきから何度も出ているが、そういった実際の目の前の問題を解決するためには、産業と防災の両方一緒に考えなければいけないのではないかな。

基本構想はどちらかという上位の概念を決めて、それを広く10年後も効果があるというように考えるかもしれないが、むしろその目の前のものをどうやって残していったらいいのかというのを、そのエッセンスというかそういったものを、引っ張り出して、こうするためにはこういうことをしていかなければいけないという逆の発想で決めていくという思考が必要なのではないかなと思う。

そうでないと、こういう問題がいつまで経っても解決しないという気がする。

2024年になっても同じようなことが繰り返されているし、ましてや墨田区は東京で地震が起これと言われつつ、いつ来てもおかしくないが、問題がずっと存在している。少し歯がゆい思いがあるので、そこは積極的に真剣に考えていきたい。各論になると、こういう場で話をすることではないと思うけれども、各論であると結局各分野の法律で縦割りになってしまう。何ていうか細かい問題を大きい問題に組み上げるというか、発想を変えていくというような思考がやはり必要かなと思う。

(事務局)

おっしゃられるとおり、やはりここに書いたものが、絵に書いた餅というか、ただ綺麗なものができ上がってよかったという話ではないということはまず一つ考えている。

あとは一番大事にしたいものは何なのかというところを以前から話させていただいているが、防災の面では命を守るといえるものであるとか、また、一方で防災のために、そのまちが培ってきた歴史・成り立ちみたいなのを壊さないようにしたいとか、そういう様々な思いが込められているのかなと認識をしている。

ただ一つの商店街から紐解いたものを、逆引き的に盛り込んでいくとなると、今回はこの商店街を紐解いて、次はここ紐解いてみようというのをやっていかないと、逆に言うと全体としての理解につながらないのかなとも思う。今いただいた意見を解決する策は何かというのは少し考え続けないと難しいと思っている。

この基本構想の中でそれを解決するというのが一朝一夕にできるだろうかというところだけは悩みである。

(相澤委員)

いくつか読ませていただいた中で思ったのが、ネガティブなイメージになるワー

ドが前面に出ていると、区民の皆さんも、これから墨田区にいらっしゃる皆さんも、いいイメージが浮かばないのかなと思った。例えば、おせっかいとかネガティブなイメージになってしまったり、あといろんな人がいて、多種多様になっていく時代の中で、どう表現していくのか難しいかと思うが、自分らしさというのも、自分らしさって何というふうに思ってしまう方もいると思う。皆さんがポジティブに捉えられるようなワードに置き換えていくなりしていただいた方がいいと思った。

（事務局）

先ほども申し上げたが、行政の議論の中でもおっしゃられるとおり、おせっかいというような言葉のところについて、一部引っかかったりしているところがある。ただ、いくつか議論があって、一番上のタイトルにいと、そこに目がいってしまうので、そこに関してはネガティブに捉えられかねないような言葉は止めといた方がいいかもしれない。一方で、下の文章を読んでもくれた人というのは多分丁寧に文章を読んでもくれる気がするから、そういったところで逆にそのネガティブなワードが反転するような言葉であれば、文章の中できちんと見せていくのはいいのではないかと。だから、タイトルの部分と、中身の部分を少し切り分けながら、そのネガティブな言葉になっていないかという視点の中で、もう1回整理をさせていただきたい。

（駒村委員）

おせっかいについては、部会でも意見が割れたところであるが、今事務局が説明したように、おせっかいをポジティブな捉え方ができるのが、すみだというふうに整理をした。

こどもの表記について、資料の下の方に書いてあるが、今のこどもの表記はこの表記。年齢で区別しないということで、この表記で大体統一するようになっている。小さいこどもという意味ではない。

あと、すみだのものづくりのところ非常にすみだのいいところだが、日本も、ものづくりでこだわった結果、かなりアドバンテージを失った部分があった。これからはサービスオリエンテッドなものづくりというのが求められている。オランダのメーカーのフィリップスは電機メーカーと名乗っていない。電子機器を作っていると称していなくて、明かりを提供する産業、電球をまちに提供するというサービスをメンテナンスする企業になっている。

ものづくりを起点とした価値創造を前に出すようにしていくと、懐かしい未来都市みたいなイメージをすみだが持てるのではないか。そういう点で横断的に議論ができればと思う。

（真鍋委員）

1部会・2部会・3部会の基本目標を見させてもらったが、どれも人とのつながりが大切だということを身に染みて感じた。なので、「人つながる 墨田区」のブランドメッセージは継続して欲しいと思っている。

今のこどもたちは、この人というロゴと、「人つながる 墨田区」が馴染んできたので、次の10、20年までもっと浸透し、実際にそのつながりが持てるような墨

	田区になって欲しいと思った。 （木村委員） 個人的な意見だが、墨田区の観光に物足りないと思うのが、点と点の観光になってしまっている点。浅草は自然にそうなったのかもしれないが、物語はよくロングストーリーにきなさいという話があると思うが、若い女の子が白い和装束を着て、大正ロマンの雰囲気を感じながら、いろんなところを観光したり、食べたりする。それで墨田区はどのようなロングストーリーがいいかと思ったところ、個人的な感覚だけれど、ださい昭和の恰好をして、まちを練り歩くみたいな。それがエモいというか、そういう感じになるのではないかと思っている。実際に古い喫茶店だったり、古い町工場だったり、そういう昭和の薫りが残る場所がたくさん残っているので、何かこのストーリーみたいな、点と点を繋ぐというか何かそういうニュアンスがあると面白そうと思った。 （加藤会長） 事務局の方から既にスケジュールの話があったが、これはこのままということにさせていただければと思う。活発な意見をたくさんいただいた。今日のところは、これをもって議題は終了とさせていただければと思う。非常に多様な意見、また厳しい意見もあったと思うが、ぜひ事務局の方で、これらの意見を踏まえた上で、改めていただければというふうに思う。 3 事務局からの連絡事項 事務局から次回の日程等について、説明を行った。 4 閉会挨拶 企画経営室長から挨拶があった。
所 管 課	企画経営室政策担当（内線 3 7 2 2）